



初めてのhomestay

蒲郡中 小林 正宗

僕がこのスタディツアーで、一番心に残っているのは『homestay』です。しかし、初めのうちは向こうの英語に慣れることができず、なかなかうまく話せませんでした。しかし、日を重ねるごとに徐々に話せるようになり、話すことが楽しく感じるようになりました。ホストファミリーにもう一度たくさんの感謝の気持ちを伝えたいです。

ブライトで得た宝物

大塚中 岩瀬 守志

ホームステイで滞在したブライトは、身近な場所に動物が現れるような、のどかな田舎町でした。最初は「頑張らなきゃ」という気持ちでしたが、いつしか「明日も楽しみ」という気持ちに変わっていました。ブライトで学んだ文化、親しくなった友、そしてお世話になったホストファミリーとの思い出は、僕の一生の宝物です。

絶対に忘れない思い出

蒲郡中 小山 二葉

「ちゃんとした英語を話さないといけない。」行く前は不安な気持ちでいっぱいでした。でも、行ってから気づきました。本当に大切なことは、「一生懸命に伝えようとする心」だと。ホストファミリーに思い切って話しかけると、私の目を見て一生懸命に話してくれました。うれしかったし、楽しかったです。心がつながったと思いました。みんな大好きになりました。この出会いは絶対に忘れません。

オーストラリア

中学生海外派遣事業が、10月17～25日の8泊9日の日程で行われました。

市内の7中学校14人の生徒がオーストラリアを訪問し、ビクトリア州ブライトの中学生との交流やホームステイを通して、海外の生活、文化、風土に対する理解を深めました。

学校教育課 ☎ 66♦1165

My Australian friends

三谷中 加納 巧太郎

「もう少し長くホームステイしたかったな。ブライトにまた行きたい。」帰国後のぼくの口癖です。5日間のホームステイは「楽しかった」の一言につきまします。ホストファミリーのウィル君と彼の友達と一緒に毎日川へ泳ぎに行ったり、野生のカンガルーを見たり、バスケットやクリケットをしました。昔からの友達のように迎えてくれた彼らには感謝の気持ちで一杯です。オーストラリアの広い大地のようにぼくも広い心を持って、もっと英語を勉強して、またウィル君に会いに行きたいと思います。

自分にできることで

塩津中 賛 溪也

ホームステイ初日、僕はどんなふうに話せばよいか分かりませんでした。しかし、逆にホストファミリー側がどのように話せば伝わるかを工夫してくれて、なるべく簡単な英語と笑顔で僕に話しかけてきてくれました。だから、僕も自分の分かる単語と動きで話しました。自分にできることをやっていたら、言葉が通じにくくても心で通じるものだと思います。

Thank you オーストラリア

三谷中 石川 捺稀

オーストラリアは良い国で、そこに暮らす人々も温かくフレンドリーに私を迎えてくれました。私が一番楽しかったのはホームステイです。ホームステイ先のジェシカとはいつも一緒に行動していました。出発前は言葉の壁が心配でしたが、毎日楽しくいつの間にか積極的に話しかけている自分を発見しました。そんな私を引き出してくれたホストファミリーに感謝しています。

自分から伝える

塩津中 岩瀬 莉帆

私は、ホームステイ先で会話ができるかとても心配でした。でも、私が伝えようすると、ホストファミリーは真剣に聴いてくれて、日本について質問したりしてくれました。この会話をきっかけに私は、豆をお皿に移すゲームで箸の持ち方を伝えたり、おにぎりを作ってあげたりすることができました。完璧な英語ではなくても伝えようとするのが大切だと教えてくれたホストファミリーのラーラに感謝しています。

